

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 コリア国際学園中等部・高等部 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☒ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒567-0057  
大阪府茨木市豊川2丁目13番35号  
E-mail contact-school@kiskorea.ed.jp  
Website http://kiskorea.ed.jp/  
幼児児童生徒数 男子42名 女子45名 合計87名  
幼児・児童・生徒の年齢12歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

コリア国際学園はユネスコ憲章に示された理念を学校で実践するため、学校として持続発展可能な教育活動に取り組んでいます。具体的には①異文化を理解し、多文化共生を実現するための活動、②地球の環境問題に具体的に取り組むための活動、③人権を尊重し、平和を実現するための活動を実施しました。

### ① 異文化を理解し、多文化共生を実現するための活動

コリア国際学園では多言語の習得を目指していますが、言語の修得には様々な意義があると考えています。コミュニケーションをとるための言語、文化を理解するための言語、自己のアイデンティティを確立するための言語として多様な生徒たちが日本語、コリア語、英語、中国語を学んでいます。また日本人、韓国人、在日コリアン、中国人など多様なバックグラウンドを持つ生徒たちが共存する学校生活では、日々の生活自体が多文化を理解する過程です。また在日コリアン史、多文化共生論など異文化を理解する授業を実施しており、授業と実践を融合した教育活動が実施されています。外部団体との協働においては日本、韓国、中国、ロシアの子どもたちの交流キャンプにボランテ

ィアとして参加しました。また生徒と大学生や他校の生徒との協同で哲学カフェを運営しており、世代を超えた多様な人々のコミュニケーションの場を作っています。韓国城南市で実施された6か国の青少年が集まるフォーラムに6名が参加し、各国の青少年の進路問題について交流しました。

② 地球の環境問題に具体的にに取り組むための活動

学校としてゴミを分別し、資源ごみを再利用する取り組みを行っています。またペットボトルのキャップやプルタブの回収をしました。地域をきれいにするための地域清掃を生徒会主催で毎週実施しており、これは地域との交流にもなっています。校内美化のために生徒有志が集まりフラワープロジェクトを企画しました。学校の入り口や生徒たちが集まるピロティに花壇を設置し、毎日交代で管理しています。

③ 人権を尊重し、平和を実現するための活動

人権意識を高めるための取り組みを実践しています。在日コリアン、被差別部落、性的少数者などについて授業やHRを通じて学びます。また地域の小学校との交流を通じて、中国帰国子女について学び、学習支援を実施しました。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

多文化共生のためのテキストブック（明石書店, 松尾知明） エティック国際関係学（東信堂, 奥田宏司など） 平和学をつくる（晃洋書房, 池尾靖志） 文化共生学ハンドブック（関西大学出版部, 浜本隆志など）など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校ではユネスコスクールとしての活動を重要な教育活動として位置づけ、授業や特別活動、課外活動を通じて実施している。もとよりコリア国際学園の建学の精神である「越境人の育成」や教育理念である「多文化共生」、「人権と平和」、「自由と創造」はユネスコスクールとしての活動と合致しており、本校の教育活動全般がユネスコスクールとしての活動としてとらえることが出来る。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

上記の通り、学校の教育活動全般がユネスコスクールとしての活動と合致しているため、教職員、保護者、生徒、また外部協力団体などとのスムーズな連携による教育活動が継続的に行われるよう緊密にコミュニケーションをとっている。また生徒会の活動を通じて全校生がユネスコスクールの活動に関われるような体制を作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒会活動を管轄する学生支援部が中心となって学期毎に評価を行っており、またESD パスポートの活動に関しては、大阪ユネスコ協会の助言をいただきながら活動を実施している。様々なきっかけを通じて生徒たちが活動に参加できるような仕組みを作ろうとしているが、自発的な活動に発展させられる生徒が限られている。全体としてのある程度拘束力のある活動(授業や全体として活動)と自発的な活動の組み合わせなどを考慮する必要がある。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校のウェブサイトやニュースレターを通じて活動を発信している。保護者や生徒、地域の方に学校の活動を理解していただく効果があり、校内や地域でも意識の向上につながっていると考えられる。

「ユネスコスクール」、「ESD」などのキーワードを使わないことが多く、ユネスコスクール同士の交流などを通じて相乗効果は表れていない。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

学校外との交流・協働は積極的に行っている。地域の教育交流団体である豊川教育コミュニティネットに参加し、豊川中学校、豊川小学校、郡山小学校、さいのもと保育園、福井高校、大阪大学と毎月連携・交流している。また箕面国際交流協会、特定非営利活動法人 GLOCAL NET と共同プロジェクトを企画したり、企画に参加させていただいたりしている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

特にありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特にありません。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

これまでの活動に加え、立命館大学産業社会学部小澤ゼミとの協働による龍安寺参道商店街を活性化するプロジェクトに参加させていただく。